

宇都宮市立東小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校で授業の復習をしている。」の設問では、肯定割合が85.7%であり、県の平均を18.9ポイント上回っている。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」の設問では、肯定割合が78.6%であり、県の肯定割合を9.4ポイント上回っている。今後も、他教科にわたり、本やインターネットを活用する場面を作り、主体的に学習できるように環境を整えていく。

○「総合的な学習の時間の学習は好きですか」の設問では、肯定割合が96.4%であり、県の肯定割合を9.4ポイント上回っている。また、「総合的な学習の時間の学習は将来のために大切だと思いますか」の設問では、肯定割合が100%と高い割合になっている。総合的な学習の時間の学習において、高い関心が見られることから、身近な問題や社会問題などに触れながら、自分の考えをまとめていったり、情報を活用したりする時間を確保していきたい。

●「学習に対して自分から進んで取り組んでいる。」の設問では、肯定割合が60.7%であり、県の肯定割合を13.2ポイント下回っている。自主学習の内容を見ても、工夫して学習に取り組んでいる児童は少なく思える。学習の目的について考えさせ、ICTなどのツールを活用しながら学習の面白さに気付かせていきたい。

●「だれに対しても思いやりの心をもって接している。」の設問では、肯定回答は78.6%であり、県の肯定割合を13.1ポイント下回っている。公正・公平に接することの素晴らしさを普段の生活や道徳の授業を通して考えさせていきたい。

●「自分には、よいところがあると思う。」の設問では、肯定回答は75.0%であり、県の肯定割合を8.3ポイント下回っている。後ろ向きな発言やきつい言葉が飛び交っている様子から、自信をなくしてしまっている児童が多く見られる。児童が前向きに生活できるように、頑張ったこと、できるようになったことなどをこまめに取り上げて、称賛していく。

宇都宮市立東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ②個に応じた指導と協働的な学びの充実	①ICT(一人一台端末)の活用や児童の問いを生かす工夫 ②児童の発言を広げ、つなげるなど協働的な学びのある授業の工夫	・児童質問調査「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」「クラスは発言しやすい雰囲気である」の設問において、4年生・5年生ともに県の平均を大きく下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・児童質問紙「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の設問における肯定回答は4年生が70.0%、5年生が60.7%と4年生5年生ともに県の平均を下回り課題が見られる。	・児童が自信をもって自分の考えをもつことができ、発表することができるよう、協働的な授業、分かる授業を展開する。	・授業場面においてペアトークなど小刻みに共有の時間を設定したり、ICT(一人一台端末)を活用したりすることにより、主体的で協働的な学びの推進を図る。 ・「宇都宮モデル」の「はっきり！じっくり！すっきり！」を意識し授業を展開することで、分かる授業を目指す。